

山ノ神Ⅱ遺跡の発掘調査

—縄文人が狩猟をしていたところ—

(公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

■はじめに

山ノ神Ⅱ遺跡は、花巻市山の神地内に所在し、北上川へ東流する豊沢川から南へ約1.8km離れた中位段丘上に立地しています。標高は約90mで、ほぼ平坦な地形です。

発掘調査は、(仮称)花南産業団地整備事業に伴い実施されています。

主に縄文時代と平安時代の遺構が見つかりました。

■遺跡の内容

令和5年10月24日までの調査で見つかった主な遺構・遺物は以下になります。

【縄文時代】

(遺構)

陥し穴 150基 (円形・方形: 131基、溝状 19基)

貯蔵穴 6基

竪穴状遺構 1棟

(遺物)

縄文土器と石器が数点

【平安時代】

炭窯 9基

■遺跡の特徴

【縄文時代】

- ・150基を超える陥し穴が見つかり、縄文人が狩猟場として盛んに利用していたことが分かりました。
- ・陥し穴は、平面形が「円形・方形」のもの、「溝状」のものに分けられます。円形・方形の陥し穴は縄文時代の前期(およそ5,500年前)頃、溝状の陥し穴はそれよりも新しいと考えています。
- ・これらの陥し穴群は列を成しているようにも見え、縄文人がどのようにして動物を捕っていたかを考える上で良好な事例といえます。
- ・木の実などを貯蔵していた土坑も見つかっており、詳しい時期は不明ですが、一時期小規模な集落があったことも明らかになりました。

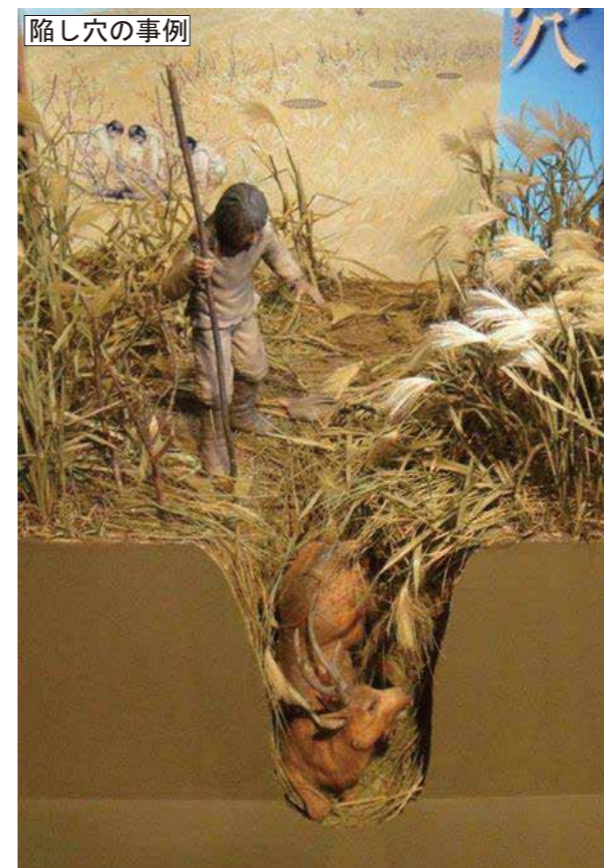
【平安時代】

- ・炭窯が9基見つっています。地面を浅く掘り下げただけの簡素なつくりで、大きさは長さ150cm、幅80cm、深さ20cmほどです。



山ノ神Ⅱ遺跡の位置

(国土地理院発行地形図「花巻」1:50,000)



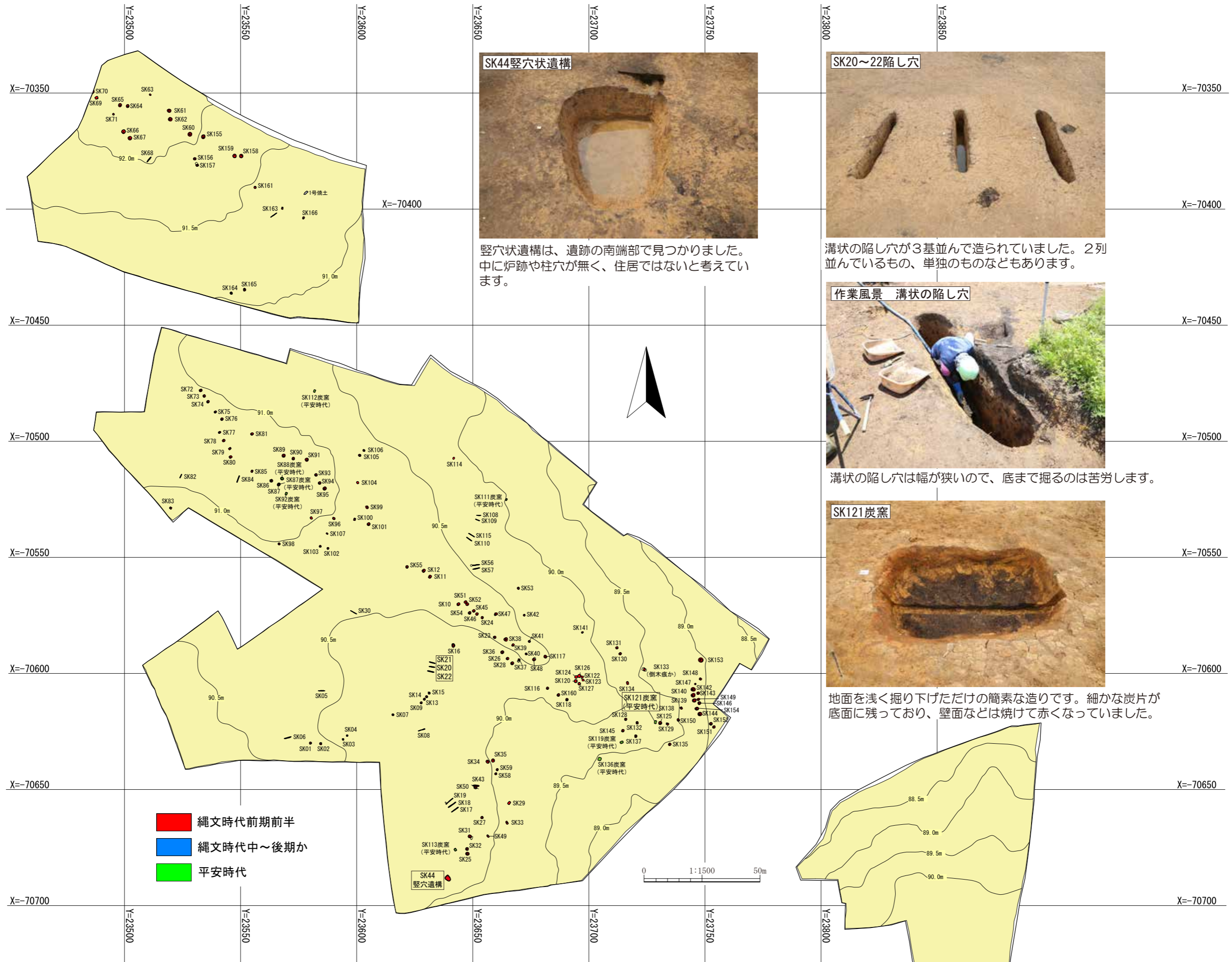
国立科学博物館に展示されている、旧石器時代の陥し穴猟の様子を想像した模型



円形・方形の陥し穴には底面に逆茂木さかもぎの痕跡が見られます。



この遺跡で見つかった陥し穴の中で最も小さいものです。開口部径が76cmしかありません。



SK44 竖穴状遺構
 竖穴状遺構は、遺跡の南端部で見つかりました。中に炉跡や柱穴が無く、住居ではないと考えています。



SK20~22 陥し穴
 溝状の陥し穴が3基並んで造られていました。2列並んでいるもの、単独のものなどもあります。



作業風景 溝状の陥し穴
 溝状の陥し穴は幅が狭いので、底まで掘るのは苦労します。



SK121 炭窯
 地面を浅く掘り下げただけの簡素な造りです。細かな炭片が底面に残っており、壁面などは焼けて赤くなっていました。

山ノ神Ⅱ遺跡調査全体図（令和5年11月1日時点）